(一財)日本建築総合試験所
建設材料技術性能証明　評価シート

【技術の名称】 Ａ.Ｍ.Ｚ工法 －回転貫入鋼管ぐい工法－（改定1）	性能証明番号：GBRC 性能証明 第 20-14 号 改1 性能証明発効日：2021 年 10 月 15 日 【取得者】 株式会社Ｅｄｇｅ

【技術の概要】

本技術は、鋼管に2枚の半円形状の先端翼、組立板、掘削刃を溶接接合し、この鋼管を回転させることによって地盤中に貫入させ、これをくい（Ａ.Ｍ.Ｚパイル）として利用する技術である。本工法の地盤から決まる押込み方向の鉛直支持力については、国土交通大臣の認定：TACP-0632,0633（2021 年 10 月 15 日）、および一般財団法人日本建築総合試験所の性能評価:GBRC 建評-21-231A-001,002（2021 年 8 月 13 日）を取得しており、この性能証明は、本技術により設計・施工されたくいの地盤から決まる引抜き方向の支持力に関するものである。

【改定の内容】

新規:GBRC 性能証明 第 20-14 号(2020 年 10 月 27 日)
改定 1:GBRC 性能証明 第20-14 号 改1(2021 年10 月 15 日)

- 軸部鋼管の材質の追加（SKK400、SKK490、HU590、SEAH590）
- 先端部鋼管の材質の追加（SKK400、SKK490）

【技術開発の趣旨】

本技術は、一つのくい径に対し複数の先端翼径仕様を用意し、設計荷重に応じた合理的な設計を可能としている。また、2 枚の先端翼はそれぞれが水平軸に対し 15°の勾配をもち、鋼管の軸方向中心線よりも鋼管側面方向寄りの位置にて交差するように取り付けることで、回転貫入力を高め、施工性の改善を図っている。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、単ぐいとしての引抜き方向の支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「Ａ.Ｍ.Ｚ工法　設計指針」および「Ａ.Ｍ.Ｚ工法　施工指針」に従って設計・施工された先端翼付き鋼管ぐいの短期荷重に対する引抜き方向の支持力を定める際に必要な地盤から定まる極限引抜き抵抗力は、同設計指針に定める標準貫入試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できる。

○適用範囲

【くい径D】

101.6㎜～457.2㎜

※基礎ぐいの先端付近の地盤

砂質地盤（礫質地盤を含む）、粘土質地盤

【翼径D_w】

250 ㎜～1150 ㎜

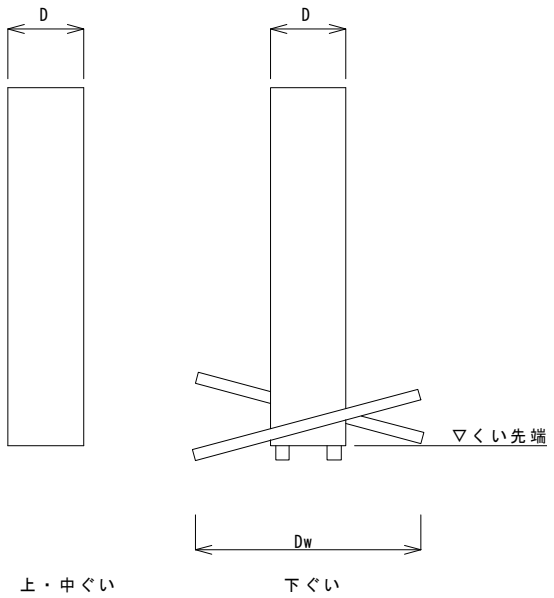

図-1 くいの構成

【本技術の問合せ先】
株式会社Ｅｄｇｅ　　担当者：長谷川 裕一　　E-mail：info@edge-amz.com
〒103-0004　東京都中央区東日本橋 1-2-6 SNS 東日本橋ビル 5F　　TEL：03-5846-9126　　FAX：03-5846-9127